

# 道徳教育の充実に向けて

## ～令和3年度道徳教育実施状況調査より～

「特別の教科 道徳」が全面実施となり、早いもので小学校では5年目、中学校では4年目が終わろうとしています。各学校においては、教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義や、要としての道徳科の授業の役割、子供自身が成長を実感できる評価の在り方等、道徳教育の特質に関する理解が十分に広がり、実践も充実してきていることと思います。

さて、昨年3月に、文部科学省が実施した「令和3年度道徳教育実施状況調査」の結果が公表され、全国の約9割の小・中学校が、「児童生徒同士による話し合いや議論が活発になった」「授業時間数を十分に確保して指導することができるようになった」と教科化による前向きな変化を感じている一方、約5割の学校が「物事を多面的・多角的に考えるための指導」や「道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための指導」等に課題意識をもっていることが明らかになりました。本県においても、これらの結果と同様の傾向が見られるのではないかと思います。

令和3年度 道徳教育実施状況調査

調査の目的  
教科化以降の道徳科を要とした道徳教育の取組状況や課題を把握することで、今後の道徳教育のさらなる改善、充実を図るために必要な知見を得る。

回答者：全国から抽出された学校  
(小中計 約2300校)

文部科学省



道徳の「特別の教科」化を受けた変化	小学校		中学校		合計	
	肯定的 回答割合	否定的 回答割合	肯定的 回答割合	否定的 回答割合	肯定的 回答割合	否定的 回答割合
	児童生徒同士による話し合いや議論が活発になった	88.2%	11.8%	85.4%	14.7%	<b>86.9%</b>
授業時間数を十分に確保して指導することができるようになった	93.6%	6.5%	91.4%	8.6%	<b>92.5%</b>	7.5%

令和3年度 道徳教育実施状況調査

道徳科の授業を実施する上での課題	小学校		中学校		合計	
	小学校数	回答割合	中学校数	回答割合	学校数	回答割合
	物事を多面的・多角的に考えるための指導	635	55.8%	575	53.2%	1210
道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための指導	647	56.9%	507	46.9%	1154	<b>52.0%</b>

令和3年度 道徳教育実施状況調査

調査結果は、文部科学省のHPで公開されています。

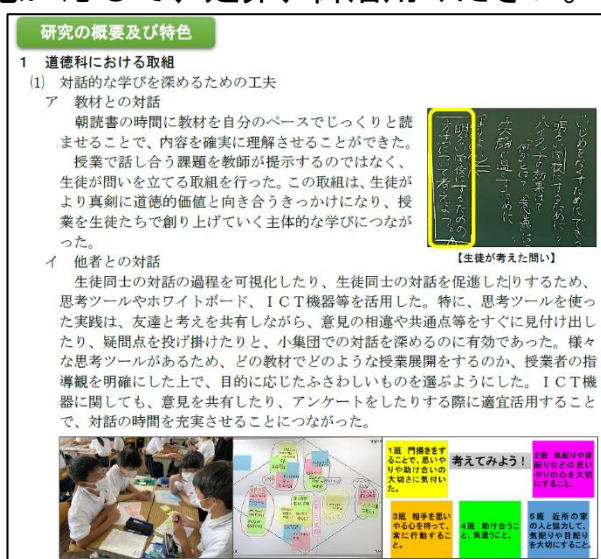
令和3年度道徳教育実施状況調査（結果概要）（報告書） <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/chousa/mext_00080.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/chousa/mext_00080.html</a>	
令和3年度道徳教育実施状況調査結果のポイント解説（動画） <a href="https://doutoku.mext.go.jp/html/basic.html">https://doutoku.mext.go.jp/html/basic.html</a>	

## ～特色ある道徳教育推進事業～

県では、道徳教育の推進及び、考え議論する道徳科の指導方法等に関する研究を行い、その成果の普及を図る目的で、研究推進校6校（小学校3校、中学校3校）において「特色ある道徳教育推進事業」を実施し

ています。今年度は研究指定の2年目に当たり、今秋、各推進校において各管内の道徳教育推進教師の先生方を中心に多くの参加をいただき、研究発表会が開催されました。

発表会では、授業公開や研究協議、研究発表等を通して、道徳教育を組織的に展開するための体制づくりや効果的な校内研修の在り方、地域素材を基に作成した自作教材の活用、ICTを効果的に活用した授業の推進等、多くの実践例が紹介されました。各推進校の実践概要はブックレットにまとめ、県内各校に配付予定です（「愛媛学びの森」学習支援サイトにも掲載予定）。各校の実態に応じて、是非、御活用ください。



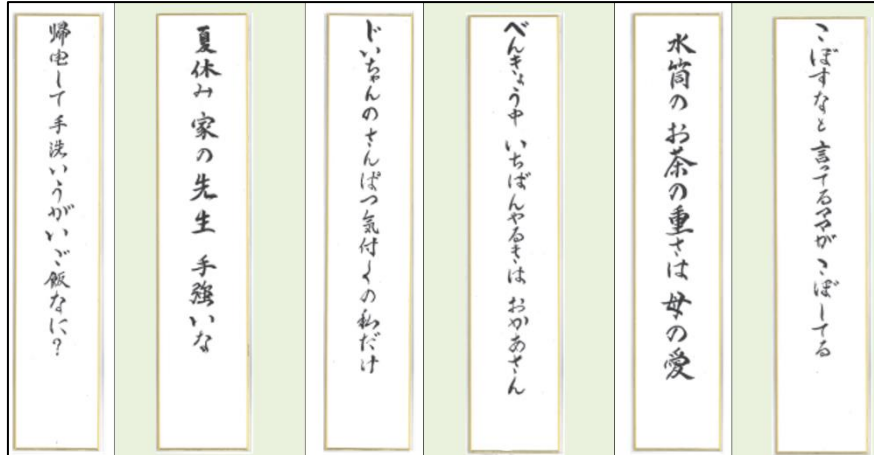
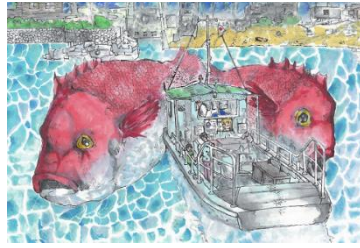
＜ブックレットの一部＞

子供たちの道徳性は一朝一夕に育つものではありません。教師と子供、子供相互の温かい人間関係を軸とした丁寧な指導の積み重ねにより、少しずつ育まれていくものです。道徳を「教える」のではなく、子供たちと「共に考える」姿勢を大切にしながら、引き続き、愛媛の道徳教育を充実させていきましょう。

3年振りに！

## 令和4年度えひめっこピカイチ大賞の表彰式を開催

1月12日に、愛媛県庁にて令和4年度えひめっこピカイチ大賞の表彰式を3年振りに開催しました。今年度は、愛ある「塗り絵部門」、「川柳部門」、1人1台端末を活用して取り組む「情報活用部門」の3部門を設定したところ、自分の興味や関心、特技に応じ、県内公立小・中学校の延べ16,798人もの児童生徒から応募がありました。表彰式では、その中から「特選」を受賞した36人に、愛媛県教育委員会教育長、愛媛県教育研究協議会会長、日本教育公務員弘済会愛媛支部支部長が賞状及び記念品を授与しました。



<「特選」を受賞した作品の一部>

愛媛県の風景を鮮やかに彩った塗り絵、家族や友達、地域の方々との触れ合いを綴った川柳、実体験と情報を融合させ、地域の魅力をまとめたプレゼンテーション等、応募作品からは、ふるさと愛媛の伝統や文化、歴史、そして身近な人々との触れ合いを大切にしながら生き生きと生活している子供たちの姿が想像できました。表彰式の教育長挨拶では、大賞を受賞した川柳の中から「水筒の お茶の重さは 母の愛」、「べんきょう中 いちばんやるきは おかあさん」の2作品を取り上げ、「我が子を思う母親の深い愛情への気づきや、熱くなっている親を冷静に見ている子供の眼差しに深く心を打たれ、共感した」と、お褒めの言葉をいただきました。

これからも、子供たちが自分の住んでいる身近な地域に興味をもち続け、このふるさと愛媛の魅力を更に発信できるよう、日々の教育活動を充実させていただけたらと思います。本コンテストへの取組に対して、指導、支援をいただきました皆様に感謝を申し上げます。

※表彰式や受賞作品の詳細につきましては、県教育委員会義務教育課HPに記事を掲載していますので、是非、目を通していただけたらと思います。

愛媛県教育委員会義務教育課HP

[https://ehime-c.esnet.ed.jp/gimu/src/new\\_gimutop.html](https://ehime-c.esnet.ed.jp/gimu/src/new_gimutop.html)

